

『あなたがたのあった試練は みな 人の知らないものではありません。

神は 真実な方ですから、あなたがたを耐えられないほどの試練に合わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに 脱出の道も 備えてくださいます。(コリントI 10:13)』

7日(金)～9日(日)の『成田祇園祭』は、4年ぶりに コロナ感染前の 従来のやり方に戻しての開催だったそうですが、どこを見ても 驚くほど 人、人、人…！ 混雑は ものすごかったのですが 大勢の人達の笑顔と賑やかさに、成田の町が イキイキと輝いて、活気に満ち満ちた3日間でした。つのぶえの子ども達(年長組&年中組)も 町内会の皆様方に温かなご配慮を頂いて、例年に戻り初日の朝、上町の山車を 最前列で引かせて頂くことが出来ました。初めて経験する子どもが多く緊張してドキドキ～！と声を挙げたり、山車の大きさに怖がったり、いつもと違う参道の景色に目を丸くして驚いたり…と、様々な表情を見せて“出番”を 今か今かと待っていた子ども達です。上町の若頭の合図とともに 真っ白な太い綱を小さな手で握ると「わっしょい！わっしょい！」と元よく大きなかけ声で かいっぱいに引っ張りながら ゆっくりゆっくりと前進していきました。ギラギラと太陽が照り続ける猛暑の中、汗だけで 顔を真っ赤にさせながら、一生懸命に踏ん張り 誰もリタイアすることなく皆で力を合わせ、上町の山車の先頭を 立派に務めることが出来ました。

今年は かつての“つのぶえっ子”の 成人した卒園生達が リーダーシップを執り、子ども達を見守りながらテキパキと仕切ってくれたので、とても安心できましたし 頼もしい姿に感激でした。また、あちこちで、懐かしい保護者の方々や、すっかり大きくなった卒園児達から 声をかけられ 思いがけなく嬉しい再会のひと時や、互いに今の様子を知る機会に変えられたことも 感謝でした。コロナによって 社会が大きく変わりながらも、つのぶえの 変らない 人の輪や繋がりを 改めて実感できました。どんなに時間が経っても 時代が流れても 保育園へ 温かな想いを注いでくれる 存在の大きさに、喜びと新たな力を感じました。今 こうして日々生きている目の前の子ども達が 地域の方々を守られ愛されていること、多くの人達の 温かなお祈りや思いがあることを 私達は 常に忘れてはならないと しみじみと思わされた 久しぶりの祇園祭でもありました。

同様に、先月10日に開催した4年ぶりの 同窓会でも、子ども達や 各保護者の方々との絆を 実感できた1日となりました。在園の皆様のご理解と御協力を 職員一同 厚く御礼申し上げます。当日は 80名以上の 小学1年生～中学3年生の卒園児達が集まり、それはそれは 賑やかでした。コロナ禍の中 集まる事が出来ず、会いたい想いを重ねながら、やっと！その願いが叶った日。私達もカウントダウンをしながら 再会を心待ちにしていました。

今年は『おかえり！』『いつでも君の居場所はここにあるよ！』の想いで 一人一人を迎えよう！ 久しぶりの保育園で 思う存分 のんびりしてもらおう！と思いました。

何もプログラムを設けず、小さいとき 自分が過ごした場所で、共に分かち合った仲間とゆっくり 自由におしゃべりをしたり 楽しく遊んだり、そんな時間と場所を 皆に提供することにしました。

かつて 広い海原へ出て行った皆は 船、保育園は いつでも船が戻る 港であると 伝えたいと思いました。そして、つのぶえで育った皆の心を 思い出してほしいと思いました。子ども達は 皆礼拝を 当時と同じように心静かにまもり、私のメッセージを真剣な眼差しで聞き入っていました。

「つのぶえで育った皆は 神様を知っている・祈る存在を知っている・皆が神様を忘れても神様は 皆を忘れない。だから決して独りじゃない・たとえ 自分の周りに壁を感じても 空には壁はない 上を向けば 自分の創り主が見てくれる、愛してくれていることを どうか思い出してほしい。つのぶえを通して出会った皆は どんな時も神様が繋げてくれているよ。いつでも帰っておいで。」そして 冒頭の聖句を皆で読んだ後、安らかな笑顔でそれぞれの海へ戻って行った子ども達でした。

“人間にとっての偶然は 神様の必然。出会いは 必然。そして 再会も また 必然。”
また来年 愛しい笑顔に会えますように…。つのぶえの すべての子ども達に主の平安を祈ります。
神様が与えてくださった 貴い絆を 心から感謝しつつ…。(石田 記)